

「構造的思考力」を育む学習課題の研究

— 説明的文章のジャンル特性に着目した読みを通じて —

学籍番号 209309

氏名 清水 馨

主指導教員 土山和久

1.研究の目的

本研究は、説明的文章を「読むこと」の学習指導において、テキストに対する学習者の構造的な認識に着目した学習課題を開発することを通じ、後述する「構造的思考力」の育成をはかり、生徒の情報活用コンピテンシーを育成することを目的としている。

2.基本学校実習Ⅰ・Ⅱにおける研究の概要

2年間の実習は大阪府立の全日制課程普通科高等学校にて行った。生徒の多くは大学に進学するため、大学入試を見据えた授業がなされており、基本学校実習Ⅰでは、国語科の授業で教員による読解のポイントに合わせた発問と解説が中心に行われているのを観察した。

基本学校実習Ⅱでは、議論の参加者が同時並行的に、同じ視点で問題事象を見ることで、参加者の意見を考え合わせ、より良い結論を出すことに繋げる方法、「並行思考」を取り入れた研究授業を構想し、思考の方向性を指定して話し合い活動をさせる研究授業を行った。

3.基本学校実習Ⅱを踏まえての研究構想の深化

基本学校実習Ⅱにおける「並行思考」を取り入れた話し合い活動が、唐突なものであり、テキストから乖離してしまったという反省を踏まえ、実習校で行われている「読むこと」を中心とした授業に沿う形で思考力を育成する研究に変更することにした。検討した、構造に着目した先行研究の多くが、テキストの内容理解を目的としたものであったため、学習者のコンピテンシー育成を目的とした新たな構造読みの指導の方法を開発する必要性を感じた。そのため、テキストの構造の読みを通じて、学習者が構造を獲得し、その構造を事象に付与して情報を整理するという情報活用コンピテンシー、「構造的思考力」を仮定し、その育成方法を探ることを本研究の目的とした。そして、生徒の認知過程に着目し、構造的認識過程「フレーム」を援用し、「ジャンル構造」という新規の構造を指定し、その構造に着目した読みの指導を通じ「構造的思考力」育成の可能性を探ることを発展課題実習Ⅰ・Ⅱにて行うことにした。

4. 発展課題実習 I における研究の概要

発展課題実習 I においては、評論文の「ジャンル構造」の要素をテキスト本文に見出させる活動を行い、その活動に対する生徒の感想をアンケート形式で集計し、発展課題実習 II における研究授業の活動の構想に繋げた。

5. 発展課題実習 II における研究の概要

発展課題実習 I における研究授業の生徒の感想の考察を踏まえ、「ジャンル構造」が内容の把握に支援的に働く可能性があると考え、テキストにおける筆者の「主張」という要素を固定し、そこに関して本文の内容を踏まえて説明的記述をさせ、その記述が「ジャンル構造」の要素を踏まえたものであるか確認することを行うことにした。

発展課題実習 II の研究授業における生徒の記述物の分析結果を考察し、本文の要素ごとの色分けにおいて、多くの生徒が要素を見出し、かつ見出している箇所も重なることが多かったことから、評論文の「ジャンル構造」の要素をテキストに見出させることは可能であると判断した。また、評論文の「ジャンル構造」がテキストの内容の把握に対しどのように機能するかに関して言えば、要素間の関係を確認するためのワークシートへの穴埋めを多くの生徒ができており、要素ごとの色分け要素を見出すことで、テキストの要点を整理しやすくなる考えた。その一方、今回の研究授業では、要素間の関係性はワークシートの展開をそのまま説明的記述に用いた生徒が多く、生徒の独力で要素間の関係性を見いだせたかは不明であると考えた。研究授業の総括をするに、「ジャンル構造」が持つ、要素をテキストに付与する機能が有効である可能性が高いととらえられた一方で、要素間の関係性を見出し総体的な意味を見出す機能の実証はできなかった。

6. まとめ

研究の結果を概括するに、情報活用に関するコンピテンシー「構造的思考力」が持つと仮定した、事象に、構造を構成する要素を付与し、整理する機能は、「ジャンル構造」を用いた読みの指導で育成することが可能であるととらえられた。その一方で、要素間の関係を認識する機能は「ジャンル構造」を用いた読みの指導で育成できるかは不透明であり、その育成に繋がる学習課題を開発するさらなる研究が求められる。また、発展課題実習 I・II の両方において、一つのテキストを対象として研究授業を行ったため、「ジャンル構造」を用いた成果ととらえたものが、実際は繰り返し同一のテキストを読んだ結果生じたものである可能性を排除することができないと考えたため、「ジャンル構造」を用いた読みで「構造的思考力」育成が可能であることをより明確に示すため、あるテキストで「ジャンル構造」を学ばせたのちに、別のテキストを「ジャンル構造」を用いて整理させ、初発時の効果を確認する、「ジャンル構造」の学習の転用をはかる研究が求められる。